

# 特別寄稿

## 京(みやこ)あんしんこども館(京都市子ども保健医療相談・事故防止センター)における事業報告(平成16年8月から17年度)

京都市子ども保健医療相談・事故防止センター長 澤田 淳

京あんしんこども館(京都市子ども保健医療相談・事故防止センター)は京都市の基本計画「母子保健医療体制の充実」に対応した施設として平成16年8月26日に府庁前の釜座通丸太町上る第二日赤病院救命救急センターの南隣にオープンした。

この施設には「子ども保健医療相談センター」と「子どもの事故防止センター」が整備されており、「子ども保健医療相談センター」は少子化、核家族社会で起こる子育ての悩みや不安、子どもの病気などについての電話や個別面談による相談、かかりつけ医や専門医療機関への紹介など連携を行っている。個別面談相談事業には、フリーの相談と時間のかかりそうな複雑な相談は予約相談として対応している。その中で京都府医師会小児科医会からの小児科専門医により、週2回、木曜日(午後5時30分から7時30分)、土曜日(午後2時から4時)に行われている。

「子どもの事故防止センター」では、日本では子どもの死亡原因の第1位が「不慮の事

故」である。このような不慮の事故をなくすために、家と同じようなモデルルームを作り、家の中の危険な場所、危険な物のあり場所と対処方法を学んでもらうセーフティーハウスを整備している。事故の発生・防止を啓蒙している。

月曜日は休館日で週6日、木曜日(昼12時から夜8時)を除き朝10時から夕方6時まで開館。スタッフは医師2名で交代勤務、保健師か看護師のどちらかが1名、事務員1名の3名が原則として勤務するが、専門医相談や講習会、研修会などのイベントがある時は総出になる。

約2年経過したので、開館した16年度8月から17年度までの活動状況を報告する。

### 1. 来館者数

表1に来館者数を示した。16年度の来館者は7か月6日間で2,135人、17年度は2,935人と予想以上で、1年7か月間余で5,000人であった。来館者はほとんど大人で、しかも、

表1 来館者数

年/月	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
H16年度	個人					38	338	251	154	107	131	90	194	1,303	181
	団体						106	180	193	39	171	92	51	832	119
	合計					38	444	431	347	146	302	182	245	2,135	300
H17年度	個人	174	143	159	239	162	188	98	167	64	84	137	123	1,738	145
	団体	14	0	153	327	0	166	78	250	161	30	18	0	1,197	100
	合計	188	143	312	566	162	354	176	417	225	114	155	123	2,935	245

表2 保健医療相談数

年/月	相談別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
H16年度	電話						19	22	23	29	22	31	40	186	27
	予約						7	3	4	5	3	5	4	31	4
	フリー						18	11	15	5	6	5	3	63	9
	合計						44	36	42	39	31	41	47	280	40
H17年度	電話	32	35	44	47	54	48	56	68	65	38	58	70	615	51
	予約	4	4	6	9	8	6	5	6	5	2	5	8	68	6
	フリー	5	3	3	5	0	2	0	3	0	1	0	3	25	2
	合計	41	42	53	61	62	56	61	77	70	41	63	81	708	59

個人来館者が団体来館者の約1.5倍であったことは、この施設への関心が高いことを示していると思われた。月平均の来館者は250-350人であった。個人、団体来館者ともに時期によって違いがあるが、殊に、団体来館者は年度の初めと終わりの月、夏休み期間は少なかった。開設当初の来館者には行政関係（各自治体関係）の人が多く、社会的関心が高い施設であることを感じさせた。

## 2. 保健医療相談件数

表2に示した。相談事業は16年度280件、17年度708件で17年には増加した。面談による保健相談：医療相談は16年度119：161，17年度は247：461で、約1：1.35-1.87で医療相談が多かった。面談による相談件数は、16年度には約7ヶ月で94件、17年度には93件であった。表3に京都府医師会小児科医会からの出務医師対応相談件数を示した。16年度には9件に過ぎなかったが、17年度には59件と増加した。また、診療情報提供書発行による紹介件数は17年度末までに15件あった。精査の必要な件数は15件（8.0%）に過ぎなかった。

表3

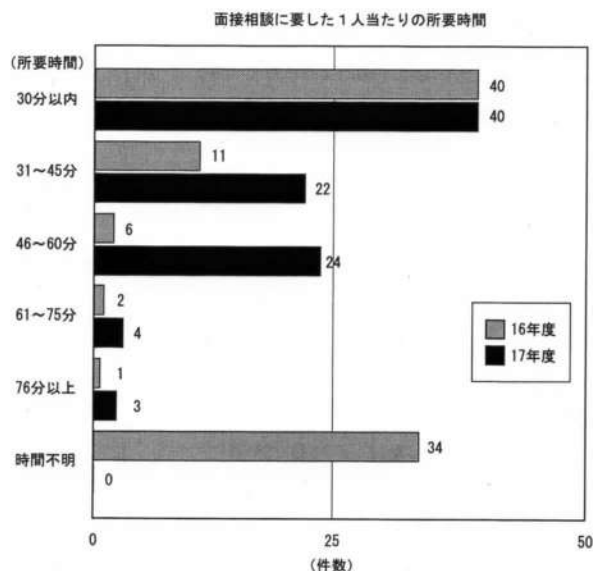
年度	診療情報提供書発行件数	医師会出務医師相談件数
H16年度	4	9
H17年度	11	59

## 3. 相談時間

図1に平成16年度には94件、17年度の93件

の面談による相談の所要時間を示した。16年度には時間不明が34件（36.2%），31分以上が21.2%であり、評価しなかったが、17年度には93件中半数以上が31分以上で、31-45分が22件（23.7%），46-60分が24件（25.8%），1時間以上が7件（7.5%）で、時間のかかる相談が多かった。複雑な心の問題となると長時間になるし、また、ゆっくりと聞いてもらえる、話しやすいことから、ついでに、あれこれと聞く母親が多いようであった。話し、聞き取ることの手な親が多く、繰り返し、説明している様子であった。質問上手になる教育が必要な気がした。

図1 相談時間



## 4. 団体来館者の内訳

表4に示した。開館当初には各自治体から

の視察を兼ねた見学が多く、17年度にも続いた。次いで、地域の子育て支援グループやボランティアグループ、育児や保育を学ぶ大学学部学生、幼稚園、保育園の職員やお母さんグループが増えだした。よい傾向と思われた。安全を考える企業からの研修は思いもよらないグループであったが、企業でも安全管理に苦慮していると述べられていた。団体来館者への研修内容は子育て不安、事故の現状と家庭内の事故発生現場と危険なものの対策を講義のあとモデルルームで見学研修をおこなっている。さらに、チャイルドシート装着による交通事故の死亡数の減少効果や安全グッズの利用法についても研修している。

表4 団体・グループ研修 (件数)

	H16年度	H17年度	合計
行政 (視察含)	39	20	59
大学・高校・看護学校	3	8	11
幼稚園・保育園関係	2	9	11
子育て支援関係	11	17	28
病院関係	1	6	7
企業・その他	2	0	2
合計	58	60	118

## 5. 講習会

一般の方に公募して講習会を16年度1回、17年度5回開催した。内容は表5のように、冊子「子どもの事故の応急手当マニュアル」をもとに「お子さんの応急手当講習会」、自動車同乗中に発生する交通事故死防止のための「チャイルドシート装着講習会」、消防署との共催の子どもへの心肺蘇生術を中心とした「救命救急対応のため講習会」を行った。18年度へ継続している。

表5 一般公募講習会

講習会	H16年度	H17年度
お子さんの応急手当 (心肺蘇生法) 講習会	1回	2回
チャイルドシート装着講習会		2回
消防署と共催による お子さんの救急救命講習会		1回

## まとめ

京あんしんこども館が開設した平成16年8月から17年度までの事業内容を報告した。日本中で最も整備された子ども保健医療施設と子ども事故防止センターが、今後、子どもの安心・安全のために一層の発展が期待されていることを感じた。(平成18年9月)

この事業に京都府医師会、小児科医会の先生方の絶大なる協力をいただいたことを深く感謝いたします。

センター長：澤田 淳 (文責)、医師：能勢 修、保健師：高峯智恵、看護師：井上了子、事務：西田明美、山口富子、京都第二赤十字病院・小児科：長村敏生、清沢伸幸